

地球物理学教室同窓会会員の皆様：

地球物理学教室同窓会は、2003年（平成15年）3月に設立されましたが、2008年2月の総会で、呼びやすい別名をつけることが提案され、以後、3年間にわたり、役員・幹事会と総会で議論してきました。

しかし、総会に出席されない会員の方々には周知されていなかったもので、その経緯をホームページで公開し、eメールでもお知らせして、ご意見をお伺いすることにしました。下記の「経緯」に示されている候補名のどれを好まれるか、あるいは、別の名称を提案されるか、どちらでも結構ですので、積極的にご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

今秋の拡大役員・幹事会で議論し、来春の総会で決定したいので、今年9月末までに、私 (t.araki@kw2.ecs.kyoto-u.ac.jp), 又は、総務の諏訪浩氏 (suwa@csis.u-tokyo.ac.jp)宛に、お知らせ下さい。新しい名称を提案される場合は、提案理由をお付け下さるようお願いいたします。

2011年5月5日

地球物理学教室同窓会 会長 荒木 徹

地球物理学教室同窓会の別名（別称・愛称）に関する議論の経緯

同窓会に適当な別名（別称・愛称）を付ける事は、山元龍三郎初代会長が役員・幹事会に提案され、これを受けて、田中寅夫前期会長から2008年2月16日の同窓会総会に審議事項として提起された。続いて開催された懇親会の席で、尾池和夫氏から、志田会としてはどうかとの発言があった。

2008年11月8日の地物同窓会拡大幹事会（役員会とも称している）において、別名について審議し、志田会、地物志田会、北白川会などが提案された*1。今後出てくる候補名も含めて、2009年2月の総会で議論し、2010年開催の総会で決めることにしてはどうか、ということになった。

*1 補足：

志田会は、京都における地球物理学研究を立ち上げた志田 順（しだ とし）(1876-1936)に因む。「志田会では、何の会であるのか判りにくいかも知れない。地物志田会はどうか」。「志田 順に対する意識は会員の世代の違い、あるいは研究分野の違いで温度差がある」。「特定の人物に因む名称より、地名に因む名称が望ましいのではないか。例えば、北白川会、あるいは地物北白川会はどうか」等のコメントがあった。ちなみに、海洋教室の同窓会は洛洋会と称しており、隔年で集まりを催している。洛洋会、「洛」は京の都を指し、「洋」は海を指す、との説明があった。

2009年2月21日の地物同窓会総会において、岩崎好規副会長から、役員会での別名についての審議結果の報告があり、今後さらに検討を進めて、2010年開催の同窓会総会で決めるようにしたい旨、提案があった。総会の場では、それ以上の議論はなされなかったが、岩崎副会長から、「志田会と名付けると、若い世代に、改めて地球物理教室の歴史を振り返ってもらう良い契機になるかも知れない」との補足意見が述べられた。

2009年11月14日の地物同窓会拡大幹事会で意見交換が行われ、候補案として、追分会、追球会、知球会が新たに付け加えられた*2。これまでに出た名称について、それぞ

れの提案主旨説明文を用意し、2010年開催の同窓会総会において決定することになった。

*2 補足：

追分会の「追分」は、地球物理学教室の住所、北白川追分町に因む。追球会は地球物理学を追い求める、知球会は地球を知るという意味合いである。名古屋大学の地球物理分野の同窓会は、名球会と称しているとのことである。類似の名付け方であるとの解説があった。

2010年2月13日の地物同窓会総会において、幹事会での審議結果が報告され、新たな提案を募った。出そろった候補について採決することに賛成する者は少数であった。そこで、とりあえず意見分布を調べたところ、志田会 0、追分会 0、追球会 1、知球会 14、北白川地物会 6、となった。別名は次回の総会で決めることとした。

2010年11月13日の地物同窓会拡大幹事会において審議し、拡大幹事会としては「知球会」を推すこととした。

2011年2月19日の地物同窓会総会において、同窓会役員会としては「知球会」を、推薦したい旨報告があった。諏訪 浩氏から、新たに候補として「花折会（はなおれかい、または、はなおりかい）」が提案されたが、決定には至らなかった*3。

*3 補足：

花折会については、次のような補足説明がなされた。すなわち、花折会は花折断層に因む。この断層が、地球物理教室のある北部構内を東端で切ることが、広く知られるようになって久しい。花折会、断層を片隅に置くと、能楽の演目でも連想したくなるような、優雅な名称であるように思われる。これに対し、支持意見はとくに見られず、逆に「花折会」では固体地球分野の色合いが強いのではないかと、といった否定的な意見もあった。それで、新会長の意向を伺いつつ、全学同窓会の愛称も横目で見ながら、それぞれの愛称の提案理由を再度明確にして、メール（手紙も含め）による投票で「花折会」と「知球会」のどちらかに決めるのが良いのではないかと意見があったが、とくにそれ以上、これに対して支持、不支持の意見は出なかった。今後の議論にゆだねられたことになる。ちなみに、花折会は川崎一朗氏が示唆し、これに基づき諏訪氏が提案したものである。

その後、役員・幹事間のメールによる意見交換で、「知球会」の提案者である竹本修三氏から、「京大」を明確にした「京大知球会」がより良いとの意見が出された。理学部内の同窓会で、宇宙物理学教室は「京都大学宇宙会」、化学教室は「京都化学学士会」を名乗っている。

また、徳田八郎衛氏から、「漢字による愛称とは別に英文の短縮略称があれば書くのに便利。京都大学地球物理学科（または地球物理学教室）同窓会の英訳は幾通りもあるが、適当に母音もいれて JETRO, JICA, KIDA などに似た略号を作れば普及するだろう。例えば、KGA や KUGA などだが、P を入れないと地質鉱物学教室とニアミスするかもしれない」との意見が寄せられた。

以上